

令和 8 年 三 重 県 議 会 定 例 会

医 療 保 健 子 ど も 福 祉 病 院 常 任 委 員 会

説 明 資 料

	頁
【 所 管 事 項 説 明 】	
1 三重県病院事業 中期経営計画 令和 7 年度の取組成果について	1
2 令和 7 年度三重県病院事業決算の概要について	7

令和 8 年 6 月 23 日

病 院 事 業 庁

【所管事項説明】

1 三重県病院事業 中期経営計画 令和7年度の取組成果について

病院事業庁では、県立病院に求められる役割・機能等を十分にふまえて、国および本県の医療政策の動向や県立病院を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、病院事業の経営を中期的な観点から計画的に推進し、それぞれの県立病院が県民の皆さんに医療サービスを安定的かつ継続的に提供していくため、「三重県病院事業 中期経営計画」を策定し、各取組を進めています。

近年の急激な人件費の上昇や物価の高騰による費用の増加など、病院経営を取り巻く環境は厳しさを増していますが、県立病院に求められる役割・機能を担っていけるよう、令和7年度においては、医師をはじめとする医療従事者の確保を図りつつ、医療サービスの安定的かつ継続的な提供や経営の改善など、中期経営計画に掲げた取組を推進しました。

(R7 目標項目達成率：49.1% (53 項目中 26 項目達成))

病院別の取組成果は以下のとおりであり、目標を達成できなかった項目については、その要因を分析するとともに、各病院における対応を進めることにより、改善を図っていきます。

◀ 病院別の取組成果 ▶

こころの医療センター

中期経営計画における令和7年度の目標と実績

目 標 項 目	R6 実績	R7 目標	R7 実績	R8 目標
(1) 精神科救急・急性期医療の提供				
精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	497	470	478	480
(2) 専門的医療の提供				
認知症入院患者数 (人/日)	29.3	40.0	30.5	40.0
アルコール依存症入院患者数 (人/日)	18.2	30.0	17.0	30.0
YMSC 新規相談件数 (件)	209	200	229	200
災害訓練実施回数 (回)	1	1	1	1
(3) 地域生活を支えるための支援				
デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,558	12,500	9,269	12,500
訪問看護延べ患者数 (人)	3,901	5,000	3,467	5,000
在院3か月以内退院率 (%)	81.6	77.6	83.3	77.6
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数 (件)	9	9	9	9
こころしっとこセミナー開催件数 (件)	32	35	35	35
家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	26	24	26	24
(4) 人材育成の充実				
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	1,663	1,900	1,483	1,900
人材育成研修回数 (回)	6	6	9	6
(5) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	99.8	100.0
患者満足度 (%)	87.5	95.0	93.5	95.0
(6) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	83.1	100.0	90.4	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	99.4	100.0

(7) 経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組					
経常収支比率	(%)	83.4	97.4	94.4	99.0
医業収支比率	(%)	52.7	65.3	52.8	67.6
1日平均入院患者数	(人/日)	193.7	237.0	191.4	246.0
1日平均外来患者数	(人/日)	178.2	200.0	183.6	200.0

令和7年度の取組成果

- 「三重県精神科救急医療システム」の支援病院として、休日・時間外等の救急患者や病病・病診連携による緊急的な紹介患者の受入れ等を行いました(478件)。また、保健所からの要請による措置診察(119件)にも対応しました。
- 認知症治療の充実を図るため、多職種が連携し、もの忘れ専門外来(週2日)や専門病棟を中心に治療(入院30.5人/日)を提供しました。
- アルコール依存症治療においては、専門性の高いプログラムを用いた入院治療等(入院17.0人/日、外来延べ2,503人)を提供しました。また、ギャンブル依存症治療においては、全6回(月1回)からなる回復プログラム(集団プログラム)を運用しています。
- 院内に設置しているユース・メンタルサポートセンターMIE(YMSC-MIE)において、若年層やその家族等からの相談(新規229件)に対応するとともに、教員、保護者や関係機関を対象に研修会(4回)を実施しました。
- 令和6年2月に運用を開始したAYA世代(思春期・若年層)病棟において入院を受け入れ、多職種協働で早期治療・退院支援に取り組みました。
- 患者の地域における生活を支援するため、外来患者に対するデイケア・ショートケアサービス(延べ9,269人)や在宅療養支援のための訪問看護サービス(延べ3,467人)を提供しました。
- 精神科専門医研修プログラムにおいて専攻医5名を受け入れるとともに、継続的な大学医局への働きかけなどにより、医師の確保に取り組みました。
- 災害拠点精神科病院として、災害時の精神科医療を提供する上で中心的な役割を担うため、県が行うDPAT(災害派遣精神医療チーム)研修に参加するとともに、大規模地震発生に備え、BCP(事業継続計画)に基づく訓練を実施(1回)しました。
- 人件費上昇や物価高騰等の影響により経常損益は3年連続の赤字となりましたが、入院単価および外来患者数の増による医業収益の増や、一般会計繰入金金の増等により、令和6年度より改善しました。(経常損益:R6 △571百万円→R7 △197百万円(+374百万円))

今後の課題と対応

- 精神科救急・急性期医療では、今後も救急患者の受入れや措置診察の要請等に的確に対応します。
- 入院患者数が減少していることから、病院に求められる役割・機能等をふまえながら、患者数を確保する必要があります。認知症治療については、専門外来と専門病棟による切れ目のない効果的な治療を引き続き提供するとともに、関係機関と連携しながら認知症治療が必要な患者を積極的に受け入れるなど、患者数の増加に向けて取り組みます。アルコールおよびギャンブルに係る依存症治療については、それぞれの治療拠点機関として、専門プログラムに基づいた治療や研修・普及啓発に取り組みます。

- YMSC-MIEにおいて、若年層やその家族等からの精神病様症状や不登校・登校しぶり、ひきこもりなどの相談に対応し、必要に応じて外来診療につなげるとともに、AYA世代病棟と連携し、多職種協働による早期治療・早期退院支援を行います。
- 患者が地域で安心して暮らすことができるよう、日常生活の自立や社会参加等に向けた支援に取り組んでいく必要があります。デイケアサービスについては、引き続き、利用者の日常生活や就労面への支援を行うとともに、利用者数の増加に向けて積極的な周知活動に取り組みます。
- 多様な医療ニーズに応じた安定的なサービスの提供や持続的な病院運営を行うためには、医療従事者の確保と育成が必要です。専門医研修プログラムにより精神科専門医の取得を希望する専攻医を積極的に受け入れて人材育成に取り組むとともに、将来的な医師の確保につなげます。
- 災害時の精神科医療を提供する上で中心的な役割を担えるよう、BCPに基づく訓練の実施や継続的な見直しを行うなど災害への備えを進めます。
- 3年連続で経常損益が赤字となったことから、収支改善に取り組んでいく必要があります。入院・外来収益の増加に向け、病床管理の徹底や医療・福祉関係機関との連携の強化等による患者数の確保を図るなど、経営改善に取り組めます。

中期経営計画における令和7年度の目標と実績

目 標 項 目	R6 実績	R7 目標	R7 実績	R8 目標
(1) 地域医療の推進				
訪問診療、訪問看護等延べ患者数 (人)	3,692	4,700	3,289	4,700
住民健診、人間ドック、がん検診、 特定保健指導受診者数 (人)	946	1,200	953	1,200
救急患者受入件数 (件)	549	750	420	750
医療過疎地域等への支援件数 (件)	3	5	6	5
多職種連携による取組件数 (件)	18	15	25	15
(2) 人材育成の充実				
研修医・医学生受入延べ人数 (人)	598	500	508	500
看護実習生等受入延べ人数 (人)	256	350	253	350
プライマリ・ケア研修会開催件数 (件)	3	3	3	3
(3) 地域医療に係る研究活動の推進				
学会、論文等発表件数 (件)	21	20	23	20
(4) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
患者満足度 (%)	98.5	96.6	98.4	96.6
(5) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 経常収支比率・医業収支比率の向上および患者数の確保に向けた取組				
経常収支比率 (%)	105.2	102.8	108.5	102.0
医業収支比率 (%)	66.4	66.3	67.5	65.7
1日平均入院患者数 (人/日)	32.4	37.0	32.5	37.0
1日平均外来患者数 (人/日)	51.9	65.7	54.1	65.7

令和7年度の実績

- 地域の幅広い医療ニーズに対応できるプライマリ・ケアを実践するとともに、通院が困難な患者に対する訪問診療（延べ532人）や訪問看護（延べ2,371人）、訪問リハビリテーション（延べ376人）等の在宅療養支援、住民健診・特定保健指導（延べ482人）や人間ドック（129人）、がん検診（342人）等の予防医療に取り組みました。
- 初期救急医療を担う医療機関として24時間365日の救急受入体制のもと、救急ホットライン（消防から医師への直通電話）や外来ホットライン（診療所等から日当直看護師への直通電話）も活用しながら、救急患者（420件）を受け入れました。
- 令和5年10月から運用している地域包括ケア病床を積極的に活用し、退院後の生活を見据えたりハビリテーションなど、在宅復帰支援に取り組みました。
- 整形外科外来枠を増加（令和7年4月）するなど、地域ニーズに合わせた医療サービスを提供しました。

- へき地医療拠点病院として、美杉地域に津市が設置している家庭医療クリニックや竹原診療所への医師派遣等を行い、医療過疎地域における医療の提供を支援しました。
- 令和7年9月から、美杉地域でオンライン診療の試行を開始し、へき地医療の支援に取り組みました。
- 地域における保健・医療・福祉の連携会議や健康啓発事業等の様々な活動を通じて多職種連携の強化を図り、地域包括ケアシステムの構築を支援しました。
- 院内に設置した認知症看護認定看護師による「もの忘れ相談室」において、入院・外来患者からの認知症に係る相談（17件）に対応しました。また、こころの医療センターと連携し、認知症を学ぶ会を開催（8回）しました。
- 令和4年10月から、津市より受託している病児・病後児保育事業について、適切に病児・病後児保育（延べ105人）を実施しました。
- 総合診療医の育成拠点として、研修医（延べ159人）、医学生（延べ323人）等を受け入れ、実践的な研修を提供しました。また、看護・介護の実習生等（延べ253人）を受け入れ、地域に貢献できる人材の育成を支援しました。
- プライマリ・ケアエキスパートナースに係る研修会の開催（3回）等を支援し、新たに2名（一志病院2名）を認証しました。
- 継続的な大学医局への働きかけなどによる医師の確保に取り組みました。
- 決算においては、地域包括ケア病床の活用等による入院単価の増により入院収益が増加し、経常損益は13年連続の黒字となりました。（経常損益：R6 +54百万円→R7 +89百万円（+35百万円））

今後の課題と対応

- 高齢化が進み医療資源が十分でない津市白山・美杉地域においては、病院での診療に加えて、通院が困難な患者への在宅療養支援や健康寿命の延伸に向けた予防医療に取り組む必要があります。引き続き、地域の医療ニーズに対応しながら、プライマリ・ケアの実践、訪問診療等の在宅療養支援、住民健診等の予防医療の提供に取り組めます。
- 津市白山・美杉地域における入院機能を有する唯一の医療機関として、初期救急患者の受入に適切に対応していく必要があります。24時間365日の初期救急患者受入体制を維持するとともに、消防機関や診療所等と密接に連携しながら、地域の救急医療体制の確保に貢献します。
- 「もの忘れ相談室」で対応した患者を、必要に応じて津市の認知症支援チームにつなぐなど、津市白山・美杉地域における地域包括ケアシステムの構築に向け連携して取り組みます。
- 県内における総合診療医育成の中心的な役割を担うとともに、多職種連携の要となるプライマリ・ケア人材の育成に取り組めます。
- 地域の診療所・福祉施設との連携強化や予防医療を含めた良質な医療サービスの提供を通じて入院・外来患者数を確保するとともに、在宅療養支援など地域の医療ニーズに対応しながら、今後も健全な経営を続けます。

中期経営計画における令和7年度の目標と実績

目標項目	R6実績	R7目標	R7実績	R8目標
(1) 地域医療の推進				
1日平均入院患者数 (人/日)	172.4	208.0	161.9	210.0
1日平均外来患者数 (人/日)	243.5	309.0	243.0	311.0
1か月平均救急患者数 (人/月)	332.2	503.0	318.1	507.0
間崎島への巡回診療実施回数 (件)	24	24	24	24
災害訓練実施回数 (件)	2	2	2	2
多職種研修会等実施回数 (回)	12	12	12	12
(2) 人材育成の充実				
初期研修医の受入数 (人)	6	6	6	6
実習生の受入数 (人)	361	440	450	440
(3) 業務改善の推進				
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	99.8	100.0
患者満足度 (%)	96.5	95.0	94.7	95.0

令和7年度の実績

- 入院診療については、一般病棟（急性期病棟、地域包括ケア病棟）および精神科病棟を運用して、多様な医療ニーズに対応しました（入院 161.9 人/日）。
- 外来診療については、病診連携や病病連携を図るとともに、幅広い疾患の患者の受入れと診療科間の連携を緊密にした診療を行いました（外来 243.0 人/日）。
- 救急医療については、内科系患者の 24 時間 365 日の受入れを継続するなど、志摩地域で唯一の二次救急医療機関として、救急患者の受入れを行いました（救急 318.1 人/月）。

今後の課題と対応

- 引き続き、志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていけるよう、指定管理者に対して医療従事者の確保を要請するとともに、病院事業庁と指定管理者が連携し三重大学に医師派遣を継続的に要請するなど、地域の医療ニーズをふまえながら診療機能の維持・充実に取り組めます。

中期経営計画における令和7年度の目標と実績

目標項目	R6実績	R7目標	R7実績	R8目標
(1) 経常収支等の向上に向けた支援				
経常収支比率 (%)	88.8	98.7	97.7	99.7
医業収支比率 (%)	54.5	64.1	54.8	65.7
(2) 医師・看護師の確保				
医師充足率 (%)	87.9	100.0	100.0	100.0
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
(3) 患者満足度の向上				
患者満足度 (%)	93.5	95.0	93.9	95.0

※ (1) については、こころの医療センター、一志病院、県立病院課を合計した値
 ※ (2) については、こころの医療センター、一志病院を合計した値
 ※ (3) については、こころの医療センター、一志病院、志摩病院を合計した値

2 令和7年度三重県病院事業決算の概要について

(1) - 1 収益的収支

(単位：百万円)

	R6年度	R7年度	R7-R6	対前年度 増減率
① 病院事業収益 (A+B+C)	5,331	5,851	520	+9.8%
医業収益 A	2,432	2,492	60	+2.5%
うち入院収益	1,859	1,919	60	+3.2%
うち外来収益	425	425	0	+0.1%
医業外収益 B	2,899	3,359	460	+15.9%
うち一般会計繰入金	2,385	2,756	371	+15.5%
特別利益 C	—	—	—	—
② 病院事業費用 (D+E+F)	5,854	5,953	99	+1.7%
医業費用 D	5,654	5,751	97	+1.7%
うち給与費	2,997	3,034	38	+1.3%
うち材料費	251	253	2	+0.9%
うち経費	1,829	1,885	56	+3.0%
うち減価償却費	551	557	6	+1.1%
医業外費用 E	200	202	2	+1.1%
特別損失 F	—	—	—	—

③ 経常損益 (A+B) - (D+E)	△523	△102	421	—
④ 純損益 (①-②)	△523	△102	421	—

(1) - 2 経常損益の病院別内訳

(単位：百万円)

	R6年度	R7年度	R7-R6
こころの医療センター	△571	△197	374
一志病院	54	89	35
志摩病院	△7	5	12
合計	△523	△102	421

※志摩病院は指定管理者制度を導入しているため、県会計上は入院・外来収益や給与費、材料費等の経費を含んでおらず、主に減価償却費等の固定資産にかかる損益を示したものとなります。

(1) - 3 患者数の状況

(単位：人/日)

	入院 (1日平均)			外来 (1日平均)		
	R6年度	R7年度	R7-R6	R6年度	R7年度	R7-R6
こころの医療センター	193.7	191.4	△2.3	178.2	183.6	5.4
一志病院	32.4	32.5	0.1	51.9	54.1	2.2

(参考)

志摩病院	172.4	161.9	△10.5	243.5	243.0	△0.5
------	-------	-------	-------	-------	-------	------

(2) 資本的収支

(単位：百万円)

	R6年度	R7年度	R7-R6	対前年度 増減率
① 資本的収入	827	795	△32	△3.9%
企業債	393	335	△58	△14.7%
県費負担金	424	439	16	+3.7%
短期貸付金返還金	—	—	—	—
国庫補助金	9	21	11	+121.9%
その他	1	—	△1	皆減
② 資本的支出	1,234	1,233	△1	△0.1%
建設改良費	407	403	△4	△0.9%
企業債償還金	737	739	2	+0.2%
長期借入金償還金	90	90	—	—
長期貸付金	—	1	1	皆増
短期貸付金	—	—	—	—
資本的収支差引(①-②)	△407	△438	△31	—

※各表について、四捨五入処理のため合計や差引が合わない場合があります。